Mr. Bassman（ベースマン列伝） Vol.54

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変･･･。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥ぐともの凄い名演･名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Keter Betts【ケター・ベッツ】

© 2012 Betts Family

Profile

1928 年 7 月 22 日、米国ニューヨーク州ポート・チェスター生まれ。本名は William Thomas Betts。“Keter” はニックネームで、“Mosquito（= 蚊）” が由来とされる。6 歳の時にドラムを始め、ジーン･クルーパーに憧れ 10 年程ドラムを演奏。ハイスクール時代にベースに転向し、アーサー・ミラーに師事。卒業から 1 年後の 47 年にワシントン DC に移り、カーメン・レジオと The 7th & T Club で演奏を行う。その後 2 年程 R&B のサックス奏者アール・ボスティックのツアーに同行。51 年にダイナ・ワシントンに誘われ、ライヴの他、名盤『ダイナ・ジャムズ』にも参加。家庭を築き始めた 55 年頃にワシントン DC に落ち着き、チャーリー・バードと活動を始める。59 年にはチャーリー・バードと欧州や南米ツアーを行う。64 年にトミー・フラナガン・トリオに参加したのを機にエラ・フィッツジェラルドと共演する機会を得る。エラが引退するまで 24 年間に渡り共演。60 年に渡る活動でエラの他､スタン･ゲッツ､ダイナ・ワシントン、クリフォード・ブラウン等、100 以上のレコーディングに参加。晩年はハワード大学で講義を行うなど教育者としても活躍。家庭も大切にし、5 人の子供を育てた良き父親でもあった。2005 年 8 月 6 日、米国メリーランド州シルバースプリングの自宅で息を引き取った。享年 77 歳。

名ヴォーカリスト達を支え、良き家庭人でもあった名ベースマン

ケターの誕生日は 1928 年 7 月 22 日。本誌由来のベースマン＝リロイ・ヴィネガーの誕生日は 1928 年 7 月 28 日。6 日違いでケターの方が年上となるが、共に生きていれば 90 歳を迎えたことになる。2 人の接点は不明だが、同世代を生きた同級生ベースマンだった。

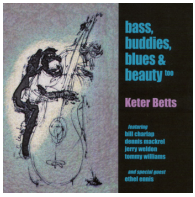
また、ケターはエラ・フィッツジェラルドが引退するまで 24 年間に渡って共演したが、エラと知り合うきかっけはケターのゴルフ仲間であり、エラの元夫でもあったレイ・ブラウンを通じてだった。エラと別れてしまったレイ・ブラウンだったが、良き友人ケターが偉大なるヴォーカリストであり元妻だったエラを音楽面で支え続けたことにも深い友情を感じる。ケターは 5 人の子供に恵まれ、亡くなった当時孫も 4 人いたそうだ。2000 年にこの世を去った愛妻ミルドレッドとの思い出を曲にした哀愁あるバラード「ピンキーズ・ワルツ」にも家族愛を感じる。

KB's Great Albums

リーダー･アルバムやエラのアルバムの他、チャーリー･バード、クリフォード･ブラウン、ジュニア・マンス、トミー・フラナガン等のアルバムでの好演にも触れてみて欲しい。

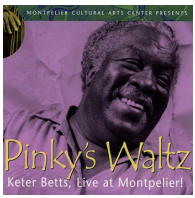
ベース・バディーズ＆ブルース
ケター・ベッツ
（Keter Betts Music : BBB-00001）[Import CD]

1998 年に録音されたケター・ベッツのリーダー・アルバム。スティーヴ・アブシャイヤー（g）やビル・チャーラップ（p）が参加。全 11 曲収録。



ベース・バディーズ・ブルース＆ビューティー・トゥー
ケター・ベッツ
（Keter Betts Music : BBB-00002）[Import CD]

1999 年に録音されたケターのリーダー・アルバム。ジェリー・ウェルドン（ts）等、ホーン・プレイヤーと熱いハードバップを披露。全 9 曲収録。



ピンキーズ･ワルツ:ライヴ･イン･モントピーリア！
ケター・ベッツ
（Jazzmont : JAZZMONT-03）[Import CD]

2002 年にビル・チャーラップ（p）とデニス･マクレル（ds）とのトリオで、アメリカ・バーモント州モントピーリアで行われたライヴから 9 曲を収録。

ライヴ･アット･カーネギー･ホール
エラ･フィッツジェラルド
（ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル : SICP-30257）

エラが 1973 年にカーネギーホールで開いたライヴの模様を収録。ケターの他、トミー・フラナガン、ジョー・パス等が参加。2 枚組 33 曲収録。